



協・競・響

Tutti

トゥッティ

★立志式 その1

2/13(土)に立志式が行われました。立志式は昔の元服や『論語』の一節が由来とされていて、数え年で15歳になる中学2年生が、人生の目標を立てる節目の学校行事として位置付けられています。

12月から総合的な学習の時間を中心に、なぜこの時期に立志式を行うのか、どのような意義があるのかなど学習をし、短い時間の中で準備を進めてきました。

感染症対策のため、例年行っている全員での群読や合唱はできませんでしたが、心地よい緊張感の中で、全員が立派な態度で臨んでいました。今できる範囲の中で、自分自身を見つめ、これからの生き方について考える貴重な機会になったと思います。

学級委員長さんには受付を、また、たくさんの保護者のみなさまにご出席いただき、ありがとうございました。今後とも、この子どもたちを共に見守り支えていければと思います。



十四歳の決意

本日、私たち赤学年236名は、立志の日を迎えることができました。みなさんは、今日どのような志を立てますか。自分の目標が定まっていなくても、今すでに目標に向かって努力しているという人も、今日この立志の日が自分を変えるきっかけになればと思います。

さて、私たちは、立志式の事前学習として、橋本左内と左内が書いた『啓発録』について学びました。福井県出身の彼が十五歳で書いた『啓発録』には、「稚心を去る」「気を振る」「志を立てる」「学を勉める」「交友を択ぶ」の、大きく分けて五つのことが、立派な大人になるための項目として記してあります。その中の「志を立てる」とは、夢や目標をもつということ。自分の心の向かうところをしっかりと決め、一度決心したからには、その方向をめざして絶えず努力することが大事です。

みなさんは、サッカーの本田圭佑選手を知っていますか。彼は、日本サッカー界を牽引する選手の一人で、努力家としても有名です。彼の言葉に、「一年後の成功を想像すると、基本の地味な作業に取り組むことができる。僕は、その味をしめてしまったんです。」というものがあります。地道な努力をしていると、どうしても嫌になったり、結果につながるのか不安になったりすることもあるかもしれません。しかし、不安や苦労以上に成功したときの喜びは大きいものであるということです。

本当の成功の喜びを味わったことがなければ、不安や苦労は大きくのしかかってくるものでしょう。けれども、私はその成功の喜びを味わってみたいと思います。そのためには、不安や苦労を受け入れる覚悟が必要です。目標をもち、それを実現すべく燃えることができる熱い気持ちをもっていきたいです。

また、もう一つ大切にしていきたいことが「感謝」の気持ちです。昨年は新型コロナウイルスが猛威をふるい、今年に入ってもなお世界中に影響を及ぼしています。そんな中、この立志式を開いてくださり、また、いつもたくさんのことを教えてくださる先生方、日頃から見守ってくださっている地域の方々、そして、毎日私たちを支えてくださっている保護者の方々など、私たちがお世話になっている人は数え切れないほどいます。その方々に感謝の気持ちをもって、これからの日々を過ごしていくことが大切です。ご心配をおかけすると思いますが、ご指導をお願いします。努力をし、前を向いてがんばっていきます。

高い志と、苦労を受け入れる覚悟をもち、常に感謝の気持ちを心に留めて生活することを決意し、将来が希望に満ちあふれたものになることを願い、誓いの言葉とさせていただきます。

(生徒代表 峯 苜 泰志)